



# 神さまが守った島

## はじめに

昭和8年(1977年)3月10日、石垣島の南南東40kmの海域でマグニチュード7.4の大地震が発生しました。まもなく、石垣島をはじめとする八重山諸島および宮古諸島を大津波が襲い、当時の津波被害の記録『大波之時各村之形行書』には、石垣島での津波は、震源に面した南側から東側がもっとも高く、宮良村で85.4m、白保村で60m、大浜村で44.2mの地点まで遡上したと記されています。

この津波で、石垣島の当時の人口17,349人のうち、死亡行方不明者は、なんと全島民の半数の8,439人。八重山諸島全体では32%の人命が一瞬にして奪われるという、近年の東日本大震災に匹敵する大惨事となりました。この津波は、当時の和暦名をとって「八重山の明和大津波」と呼ばれています。

まで、大幅にそがれていたことがわかります。

## 天然の防波堤

実は、竹富島の東から南にかけての沖合約10kmの海域は、水深10m以下と非常に浅く、広大なサンゴ礁が広がっています。また干潮になると干上がってしまう「ピー」と呼ばれるサンゴ礁の外縁が、竹富島を守るように発達しています。この優勢なサンゴ礁が、天然の防波堤として津波の力を大きく削り取ったからこそ、竹富島はほとんど無傷だったと考えられています。一方、大きな被害を受けた石垣島、黒島、新城島は、このサンゴ礁の圏外にあったため、そ



竹富島のコンドイ浜

## 竹富島

石垣島の南西約6kmに浮かぶ竹富島は、周囲は約9km、最も高いところで20m程度という、サンゴ礁が隆起してできた平坦で小さな島です。津波の当時、この島には1,313人が暮らしていました。

竹富島の震源からの距離は、85.4mという信じがたい遡上高



竹富島の集落

の恩恵を受けることができず、ともに津波をかぶってしまったのです。地球が幾千、幾万もの年月をかけて育んだサンゴ礁は、天然の防波堤となり、未曾有の災害から確かに人々の命を守りました。竹富島の人々が伝える「神さまが守った島」は、決して単なる伝説ではなかったのです。

## ネガティブキャンペーン

ところで、石垣島での津波の最高遡上高85.4mは、にわかには信じられない数値であり、研究者からは記録の誤りではないかと指摘されています。こうした過去に起こった災害記録や伝承などで、現代の科学では考えられない、もしくは常識的でありえない、とされるものは、科学的という名目で数値などが矮小化されたり、無視されたりすることがあります。こういった傾向を、東北学院大学名誉教授の岩本由輝氏は、「ネガティブキャンペーン」と呼んで危惧しています。

## 八重山の津波では

同氏著『歴史としての東日本大震災』によると、例えば八重山の津波の津波遡上高を、『理科年表』の「日本付近のおもな被害地震年代表」の記述の変遷を辿って見てみたいと思います。

を記録した石垣島の南側と、さほど変わらず、平坦な竹富島の運命は誰の目にも明らかでした。しかし、竹富島での死亡者は27人に止まりました。しかも、亡くなったのは、納税のために石垣島を訪れて罹災した人々で、島に残った人々は誰一人犠牲になることはありませんでした。津波で全てが流されてしまうはずだった島に一体何が起きたのか。竹富島や、石垣島の大浜や新川では、「竹富島は神の島だから、津波のときに島が浮き上がって助かった」と伝えられています。

## 八重山諸島の被害

八重山諸島は、沖縄本島からさらに400km以上南西に離れた石垣島、竹富島、小浜島、黒島、新城島、西表島、由布島、鳩間島、波照間島の島々と、西に離れた与那国島及び、周辺の無人島からなります。

『理科年表』1971年版では、津波高を「最高28尺、または28丈」と書いています。この28丈という数字は「大波之時各村之形行書」に由来する84mですが、28尺(8.4m)とは、「形行書」にある84mという数字が常識に反するから、記録の間違いだらうとして一桁下げただけの数字です。さらに『理科年表』1974年版では、「最高28丈(一説によると約40m)」として、さすがに「28尺」は引つ込めたものの、40mというのも大体84mの半分くらいだろうと「常識の範囲」で考えられた数字のようです。

そして1989年版からは、津波高の具体的な数字には触れず、「津波による被害が大きく」という表現に止めて、今日に至っています。

## おわりに

こうしてみると、科学的に正確を期したという数字は、当時の記録を尊重しておらず、根拠もあいまいな場合があることがわかります。福島県相馬郡にある諏訪神社では、大津波の際に境内の大本のつべんに舟を繋いだという伝説が語ら

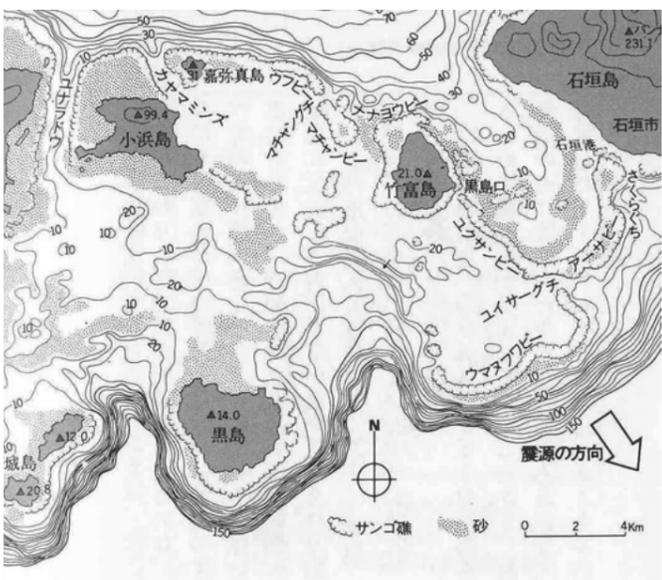
このうち、津波の矢面にさらされたのは、石垣島、黒島、新城島、竹富島でした。竹富島以外の人的被害は、石垣島8,439人で人口の48.6%、黒島293人で24.5%、新城島205人で37%といずれも甚大で、竹富島の犠牲者0人は、いかに奇跡的なことであったか、わかります。

## 竹富島の状況

それでは、津波襲来時の竹富島の状況をみたいと思います。竹富島の集落は、島の中央部の標高約15~20mに集中していました。津波当時、島の周縁はまんべんなく津波が押し寄せ、畑地107町の作物が潮をかぶせ、36町は土壌が流されて耕作ができなくなりました。しかし、津波は集落を呑み込むことはなく、石垣島で猛威を振るった恐るべき威力は、竹富島へ至るまでに遡上高15m程度

られています。東日本大震災の津波によってビルの屋上に置き去りにされた自動車や船の惨状を目の当たりにした現在の私たちには、これは決して大げさな言い伝えではないことが、わかるはずはです。

朝日新聞の調べによると、東日本大震災の後、古文書や古碑、伝承を27道府県が調べ直しているようすが、たとえ今ではあり得ないと考えられるようなことでも、先人が残した記録史料や伝説を本当の意味で「科学的」に検証した上で、今後の防災計画等に活かして欲しいものです。(文：江口知秀)



竹富島周辺海域の状況 「沖繩の自然 その生いたちを訪ねて」1975年、平凡社から転載